

平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	奈良県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
奈良県	特別支援学校	知的障害	奈良県立高等養護学校

2 研究課題

「就職率 100%を目指す学校」をスローガンにしている高等部単独設置の知的障害特別支援学校を対象に、生徒のキャリア発達を促すための授業や現場実習の在り方を探り、生徒の就職率向上を目指す。

3 研究の概要

対象の特別支援学校は平成 28 年度より、3つの県立高等学校に分教室を設置し、職業に関するコースを設定することでキャリア教育の充実を図り、職業教育を充実させることにより就職率の向上を目指す。目的達成に向けて、キャリア教育コーディネーターを該当の特別支援学校に2名配置し、各コースに応じた授業や現場実習の在り方について研究を進めた。

【モデル校における取組】

職業に関するコースに応じた現場実習先及び協力企業に対して、キャリア教育コーディネーターが開拓を進めた。また、企業が求める人材等について情報収集を行い、「授業改善リスト」（別紙資料1）、「キャリアチェックシート」（別紙資料2）を作成し、授業改善や現場実習の在り方について提案した。

キャリア教育連絡会議を開催し、職業教育の充実と生徒理解について関係機関との連携を深めた。また、新規職場実習受け入れ企業に対して授業公開等を実施することにより、生徒理解を深め、実習及び就職の受け入れの促進を図った。

【高等学校における取組】

高等学校に在籍する発達障害等、特別な支援を必要とする生徒の進路指導について、分教室を設置する高等学校特別支援教育コーディネーター等との協議会を実施し、障害のある生徒の進路指導のノウハウの共有を図った。

【他の特別支援学校における取組】

特別支援学校進路指導研究会において、事業の趣旨や進捗状況について定期的に情報

提供を行った。また、本校以外の特別支援学校の進路担当者においても、必要に応じてキャリア教育研修会等を実施し、障害のある生徒の就職率向上を目指した。

4 研究の成果

キャリア教育コーディネーターが、本校進路担当者と協力しながら、現場実習先や就職先の継続協力依頼や新規現場実習先等の開拓を目的に、企業訪問を実施した。4月より12月までに、約400近い企業に対して訪問を繰り返した。その結果、50社程度の新規開拓企業を開発し、100社程度の継続協力の実績を上げることができた。今年度、卒業生の就職率が昨年度の83%より上昇し、1月末現在で採用内定決定が90%を超える成果があった。

企業訪問の際に、企業が求める人材等について情報収集を行った。得られた情報をもとに「授業改善リスト」を作成し、教員との連絡会議で活用することで、職業教育の充実に向けた授業改善に努めることができた。また、「キャリアチェックシート」を生徒に提示し、生徒自らが実習の目標を設定することで、将来の職業生活のイメージを高め、実習への意欲の向上につながった。

キャリア教育連絡会議を開催することにより、福祉や労働等の関係機関とネットワークの構築を図ることができた。また、授業公開等を実施することにより、生徒理解を深め、実習及び就職の受け入れの促進を図り、就労支援の充実につながった。

本校の特別支援教育コーディネーターとキャリア教育コーディネーターが連携して、来年度、分教室を設置する各高等学校において、「障害理解」の研修会を高等学校全教員対象に実施した。高等学校に在籍する発達障害等、特別な支援を必要とする生徒についての理解が進み効果的な指導や支援につながるとともに、進路指導の在り方について共通理解をすることができた。

また、他の特別支援学校においても、進捗状況を報告することで、情報を共有することができ、生徒の進路指導の一助となることができた。

5 課題と今後の方策

企業が求める人材等について情報収集を行った結果、職業的なスキルの向上が必要であるとともに、あいさつ等の「マナー」、仕事を継続し得る「体力」、対人関係の基盤となる「コミュニケーション能力」の育成が求められることが分かった。これらの力は小・中学校段階から意識して取り組むべき課題であるが、小・中学校ではキャリア教育の観点の中心課題とはとらえられていないのが現状である。そこで、生徒にとって、早い時期からのキャリア教育の充実を目指すためには、小・中学校との連携を深め、詳しい情報提供を行っていく必要がある。

各高等学校に設置する、職業に関するコース（「福祉・くらし」「流通・サービス」「農園芸」「芸術表現」「ものづくり」「環境サービス」）に応じた現場実習先及び協力企業の開拓を進めきた。各コースの学習内容に応じた実習先・就労先を模索しながら取組を進めてきたが、「芸術表現コース」については、学習内容に応じた企業のニーズも少なく、開拓も進まなかったのが現状である。今後は作品展等をとおして、生徒の作品を企業にも周知することで取組を進めていく予定である。

高等学校に在籍する発達障害等、特別な支援を必要とする生徒の進路指導について、高

等学校にはそのノウハウが少ないのが現状である。当面は、特別支援学校の教員が支援しながら高等学校の教員にも理解を促し、進路指導の取組を確立させていきたい。